

特別支援学校小学部における体育授業実践

— “ゴールフリー” な表現運動 —

岩切昌大*・坂下玲子**

The Practice of Physical Education for Elementary School Section of Special Education School

— “Goal-free” expression movement —

Shodai IWAKIRI and Reiko SAKASHITA

1. はじめに

平成29年4月に告示された特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（文部科学省，2017）における小学部の体育科では，生涯にわたって心身の健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を目指すことを示している。また，内容について今回の改訂では，従前の「基本的運動」，「いろいろな運動（1段階：運動遊び）」，「きまり・安全（1段階：きまり）」の3観点から，小学校体育科の内容との連続性を踏まえて，六つの運動領域と保健領域として示された。その中に「F 表現運動系」の領域がある。「F 表現運動系」の領域として，1段階を「表現遊び」，2段階及び3段階を「表現運動」としている。

そこで本報告では，新学習指導要領を踏まえ，平成30年度に熊本大学教育学部附属特別支援学校小学部で行った，「F 表現運動系」の実践及び児童による表現方法や体の動きについて報告する。

2. 実践の概要

1) 小学部タイムについて

本校小学部では，体育を「小学部タイム」という授業名で設定している。10時10分～40分の約30分間，ほぼ毎日様々な運動に取り組んでいる。これまでの学習内容は，ランニング，ラジオ体操，サーキット等の体づくり運動やボール運動，ダンス及びリトミック的活動を中心とした表現運動等，様々な運動に取り組んできた。

2) 対象児

本実践では，小学部の1年生から6年生までの児童全員（男子13名 女子4名 計17名）を対象とした授業を行った。新学習指導要領「F 表現遊び，表現運動」の段階としては，1段階から3段階まで児童それぞれであるが，特に2段階を目標としている児童が多かった（表1）。

表1 対象児の実態

	1段階	2段階	3段階
F 表現遊び (1段階) 表現運動 (2, 3段階)	ア 教師と一緒に，音楽の流れている場所で楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら，音楽に合わせて楽しく体を動かすこと。	ア 基本的な表現運動の楽しさを感じ，その行い方を知り，基本的な動きを身に付け，表現したり踊ったりすること。
	イ 音楽の流れている場所で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 基本的な表現運動に慣れ，その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 基本的な表現運動の楽しみ方を工夫するとともに，考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って，表現遊びをしようとする。	ウ 簡単な決まりを守り，友達とともに安全に楽しく，基本的な表現運動をしようとする。	ウ きまりを守り，自分から友達と仲よく楽しく表現運動したり，場や用具の安全に気を付けたりしようとする。
児童の実態	1名	13名	3名

また，2年生から6年生までは，平成29年度の学校祭「すずかけ祭り」にて，テーマソングに合わせて簡単なダンスに取り組んだ経験がある（写真1）。その際には，手本の教師を見ながら振り付けを覚え，ステージ上で踊ることができた。笑顔で意欲的に踊る姿が見られたことから，音楽に合わせて踊ることが好きな児童が多いと考えられる。その一方で，「手本を見ながら覚え，踊る」



写真1

平成29年度「すずかけ祭り」オープニングダンスの様子

* 熊本大学教育学部附属特別支援学校

** 熊本大学大学院教育学研究科

という段階の学習にとどまり、児童の「自由な表現」という学習をねらうまでには至らなかった。

3) 「“ゴールフリー”な表現運動」について

上記のような児童や学習の実態を踏まえ、特別支援学校「表現遊び・表現運動」の授業づくりについて、検討を行った。その際、決まった技術や形を身につけていく「習得型」の学習ではなく、「今、ここ」から始まって生み出していくゴールフリー的な「探求型」の学習(村田, 2011)を重視した。“ゴールフリー”な表現運動とは、題材から児童にこのような動きを行ってほしいというねらいは持ちつつも、注目したことや考えたことをどのように表現するかは児童の自由であり、一人一人の表現の面白さを大切にすることである。本実践では、この“ゴールフリー”な表現運動を念頭に置き、授業構成や教材を考えていった。

4) 単元及び授業の概要について

期間は、平成30年10月9日～19日の計8回の授業を設定した。なお中心となる表現運動に取り組む時間は約15分程度であった。題材名及び目標は表2のとおりである。

表2 題材名及び目標

題材名	体で表現してみよう	
目標	知識及び技能	音楽や題材に合わせて体を使って表現することができる。
	思考力、判断力、表現力等	特徴を捉えた表現を友達や教師と協働・共有し、踊ったり、表現を工夫したりすることができる。
	学びに向かう力、人間性等	友達や教師と一緒に表現する楽しさを味わい、自分から体を動かそうとする。

これらの目標の達成を目指し、授業を3次に分けて行った。

①第1次 「音楽を聴いて、体を自由に動かそう」

授業回数：2回 場所：プレイルーム

「1. ダンス動画を見ながら踊る」、「2. 歌詞がある曲を聴きながら自分で動きを考えて踊る」、「3. 音楽のみを聴いて体を自由に動かす」という構成で授業を行った。「1. ダンス動画を見ながら踊る」では、軽快な音楽で比較的ゆっくりなテンポで踊ることができる「ラッキーちゃんぼんめん(ケロポンズ)」の曲を使用した。「2. 歌詞がある曲を聴きながら自分で動きを考えて踊る」では、月曜日や火曜日等、曜日が歌詞に使われている「おどるんようび(ケロポンズ, 福田りゅうぞう, 鈴木翼)」の曲を使用した。「3. 音楽のみを聴いて体を自由に動かす」では、児童に馴染み深く、聴いたことのある「ミッキーマウスマーチ」を使用した。

②第2次 「いろんなどうぶつにへんし〜ん」

授業回数：3回 場所：プレイルーム

動物園を題材に、スクリーン上に映した動物のイラストを見て、その動物になりきって表現することを行った。

- ③第3次 (1)「空の旅へレッツゴー」
(2)「海の中へレッツゴー」
(3)「レッツ・せんたく〜みんなでせんたくものになってみよう〜」

授業回数：それぞれ1回 場所：体育館

「空の旅へレッツゴー」及び「海の中へレッツゴー」ではスクリーン上に映した空や海にいる生物、乗り物、天候の変化等について、自分で考えた表現を行った。「レッツ・せんたく〜みんなでせんたくものになってみよう〜」では、洗濯機の中の衣服の様子や、衣服の「しわ伸ばし」、「干す」、「たたむ」といった表現を行った。

5) 授業づくり・教材等の工夫点について

①第1次 「音楽を聴いて、体を自由に動かそう」

a) 段階的な授業構成

「1. 動画を見ながら」、「2. 歌詞がついた音楽」、「3. 音楽のみ」という順に少しずつ段階を上げて授業を展開することで、児童の表現運動に関する実態把握を兼ねつつ、ダンスや表現することに慣れ、徐々に見通しを持って主体的に取り組めるようにした。

b) 友達の表現の紹介

友達の表現に面白さを感じ、模倣する等自分の動きに工夫することができるように、個性的な表現をしている児童を指名し、表現の紹介を適宜行った。このことは、引き続き第2次、第3次での学習の際も時間を設定した。

c) 手本の友達

「2. 歌詞がついた音楽」では、友達の動きに注目できるように、2回目の授業では、「月曜日の音楽が流れている時は、〇〇君の真似をしてみよう」と曲の歌詞に使われている曜日毎に手本となる児童を決め、スクリーン上のスライドに提示するようにした(写真2)。

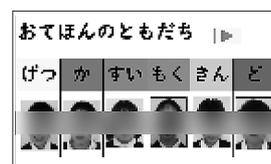


写真2

手本となる児童を提示したスライド

②第2次 「いろんなどうぶつにへんし〜ん」

a) 動物園の動画による導入

題材と身近な物事を関連させ、想起させることをねらい、初回の授業の始めに動物園の動画を流

し、児童が動物園に行ったことやテレビで動物園を見たこと等の想起を促すようにした。

b) 動物のイラストの提示

子どもたちになじみ深く、分かりやすい動物のイラストをスクリーン上に映し、表現できるようにした。表現する動物は、子どもに表現してほしい動物や動きを各学級の教師から募集し、授業ごとに追加及び変更していった。

c) キーワードの追加

児童のよりダイナミックで豊かな表現をねらい、2回目の授業からは動物に一つ条件をつけたり、イメージがしやすいキーワードを添えたりしたスライドをスクリーン上に映すようにした(図1)。

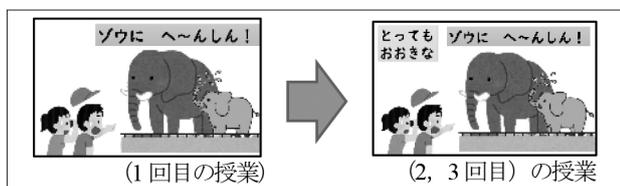


図1 スライドの変更点

③第3次 (1)「空の旅ヘレッツゴー」

(2)「海の中ヘレッツゴー」

a) ストーリー仕立ての内容

児童が表現の世界に熱中できるように、スライドを絵本のように展開し、ストーリーに沿って表現する内容が変わっていくようにした(図2)。

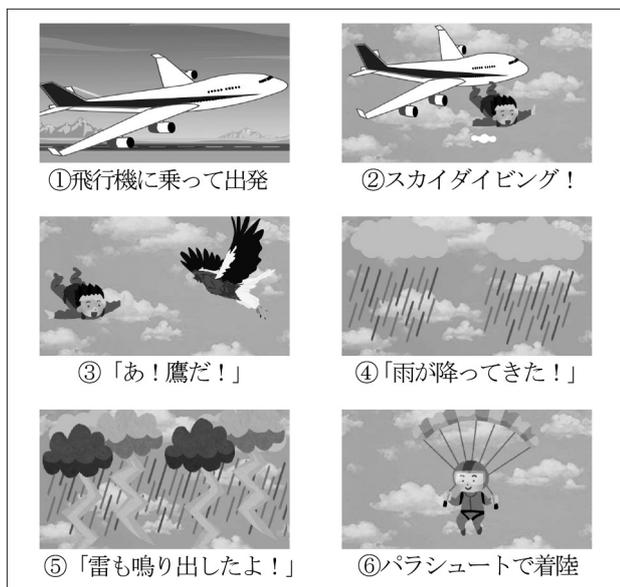


図2 「空の旅ヘレッツゴー」使用スライド 一部抜粋

④第3次 (3)「レッツ・せんたく～みんなでせんたくものになってみよう～」

a) 実際の洗濯の観察

実際に洗濯の様子を見ることで子ども達の興味

を引き付け、洗濯物になりきることをねらい、体育館で桶を洗濯機に見立て、洗濯物のすすぎから干すまでの一連の流れを実際に行った。

3. 結果と考察

1) 第1次「音楽を聴いて、体を自由に動かそう」

第1次「音楽を聴いて、体を自由に動かそう」で、授業中に見られた児童の表現や様子を表3にまとめた。

表3 第1次での児童の表現

第1次「音楽を聴いて、体を自由に動かそう」	
内容	児童の表現・様子
「1. ダンス動画を見ながら踊る。(ラッキーちゃんぼんめん)」	<ul style="list-style-type: none"> ・じっと動画を凝視する。 ・体を揺らす。 ・友達の様子を見て笑顔。 ・自由にジャンプする。 ・動画を見ながら、振りつけと同じように踊る(手を振りながら横に一歩跳ぶ、足踏みしながら回る、手を合わせながら上に挙げる等)。
「2. 歌詞がある曲を聴きながら自分で動きを考えて踊る。(おどろんようび)」	<ul style="list-style-type: none"> ・走り回る。 ・片足や両足で小さく連続ジャンプ。 ・その場で素早く足踏み。 ・親指と人差し指を立てて(鉄砲のよう)、交互に前後に手を振る。
火	<ul style="list-style-type: none"> ・両腕を縦横無尽に大きく回す。 ・腕を曲げたまま上下に振る。 ・床に仰向けになり、回る。
水	<ul style="list-style-type: none"> ・腕を回しながら歩く。 ・平泳ぎのようにしながら歩く。
木	<ul style="list-style-type: none"> ・指を握ったり開いたりする。 ・腕を上げたまま走る。 ・腰を振りながら腕を回す。
金	<ul style="list-style-type: none"> ・手を振りながら走る。 ・足を開き、片腕を大きく回す。 ・指を伸ばし、様々な方向に腕を伸ばす。
土	<ul style="list-style-type: none"> ・足でドンドンと音を立てながら歩く。 ・友達につかまり、歩く。 ・教師に向かってパンチ。 ・尻を床に付けて、回る。
「3. 音楽のみを聴いて体を自由に動かす。(ミッキー・マウスマーチ)」	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と両手をつなぎ、体を揺らす。 ・教師と両手でハイタッチしながら、その場で回る。 ・室内を反時計回りに回る(走る、歩く、手を横に広げて歩く、スキップ、片腕をリズムよく上げながら歩く)。

「1. ダンス動画を見ながら踊る」の授業場面では、前述の通り、ダンスが好きな児童が多かったことから笑顔でダンスに取り組む様子が多く見られた。児童が集中して動画を見て踊る様子(写真3)から、ダンスの振り付けを覚える際に支援方法として、見本として教師が前に立つ方法に加え、動画の活用も効果的であった。児童の特性や授業形態によって使い分けていくことが重要である。また、この授業を発展させるためのアイデアとして、ちゃんぽんと



写真3 動画を見て踊る児童

いう題材ならば、ちゃんぼんの具材になってみようという授業展開も有効であったと考える。

「2. 歌詞がある曲を聴きながら自分で動きを考えて踊る」の授業場面では、「おどるんようび」の曲に合わせて様々な表現が見られた。「水曜日」という言葉から「水」を連想して泳ぐことを表現する等、言葉と関連した動きを考えて表現する児童や自分が行いたい動きをする児童等、児童の発達段階や理解度によって動きに違いがあった。また、2回目の授業で手本の友達を指定して模倣を促したことにより、プレイルーム内を走り回るだけだった児童が友達の真似をする等、変化が見られた(写真4, 5)。



写真4
手本の児童



写真5
模倣して踊る児童

反省点は、曲のテンポが速く、激しい曲調で落ちて考えることができなかつた点である。曲のテンポの緩急に留意しながら、表現を引き出す様々な言葉やキーワードが歌詞に使われている曲を選定し、教材として使用することが重要である。

「3. 音楽のみを聴いて体を自由に動かす」の授業場面では、音楽を聴き、様々な動きで歩いたり走ったりしながら室内を回る姿が見られた。室内を回る理由は、本校の小学部タイムでランニングの際に使用される曲に、今回の授業と同じ「ミッキーマウスマーチ」を使用していたからであろう。そのため、室内を回ることが先行してしまい、その場での表現を促すことができなかつた。さらに、一曲しか取り扱わなかつたために、曲の違いによる表現の違いの面白さを児童が味わうまでに発展しなかつたことも大きな反省点である。

2) 第2次 「いろんなどうぶつにへんし〜ん」

第2次「いろんなどうぶつにへんし〜ん」で、授業中に見られた児童の表現や様子をまとめた表4のとおりである。

初回の授業の最初に、動物園の動画を見る時間を設定したことにより、児童から「動物園だ！行ったことある！」「動物園でライオン見た！」といった発言を引き出すことができた。中心となる表現場面では、動物のイラストを見て、思い思いに動物に関する表現をすることができた。児童同士による表現の模倣も見られ、児童がエサを食べるような表現

表4 第2次での児童の表現

第2次 「いろんなどうぶつにへんし〜ん」		
回	動物及びキーワード	児童の表現・様子
一 回 目	ぞう	・腕を振りながら歩く。 ・足を大きく上げて歩く。
	わに	・四つ這いで進む。 ・腹ばいで進む ・教師に乗りかかる。 ・うずくまっまま動かない。 ・大きく口を開けて、教師を食べようとする。
	カンガルー	・その場で繰り返しジャンプ ・走りながら、時々ジャンプ ・両足でジャンプしながら前に進む。
	キリン	・片腕を高く上にあげて歩いたり、走ったりする。
	さる	・片腕を頭の上、もう片腕を頭の下で動かしながら歩いたり、走ったりする。 ・友達や教師の背中をくすぐる。
	カバ	・腕を縦に大きく開閉。 ・口を大きく開く、教師や友達を食べようとする。 ・四つ這いで進む。
	とつても大きなぞう	・背伸びをしながら腕を高く上げ、振り下ろして進む。 ・大きな足音を立てる。 ・大腿で歩く。 ・鼻に見立てた腕でエサを拾い、食べる動き。
二 回 目	によるよるへび	・手を合わせ、腕を伸ばしてうつぶせになる。 ・手を合わせてくねらせつつ、四つ這いになって進む。 ・うつぶせになり、体をくねらせる。 ・寝た状態から、体を横転する。
	ピタッと止まる フラミンゴ	・手を横に開き、片足を体の前方(後方、横)にあげ、片足立ち。 ・教師と手をつなぎ、一緒に片足立ち。 ・教師と両手を合わせ、バランスをとり合う。 ・しゃがみ、頭を床につけて水を飲む動き。
	とおいにジャンプ カンガルー	・両足でジャンプしながら前に進む。 ・両手を大きく振り、両足ジャンプ。 ・両手を床につき、両足ジャンプ。 ・しゃがんだ状態から両足ジャンプ。
	とつてもはやい チーター	・両手を床につけ、しゃがんだ状態から素早くジャンプを繰り返す。 ・膝を付けず、両手を床につけた状態、手足を交互に出し、素早く進む。 ・走る。 ・肉を食べる動き。
	とつてもゆっくり ナマケモノ	・四つ這いになり、腕をゆっくりと前に出して進む。 ・うつ伏せや横向きで寝たまま動かない。 ・教師の背中にしがみつく、抱っこされる。 ・仰向けのまま足を動かして移動する。 ・仰向けになり、両腕両足をあげ、木にぶらさがれる動き。 ・教師の腕に捕まり、木にぶらさがれる動き。
	とつてもつよい ゴリラ	・両腕で交互に胸を叩く。 ・かがんで腕を床に付けながら歩く。 ・バナナの皮をむいて、食べる動き。 ・しゃがんでうんちをする動き。
	はねをひろげる くじゃく	・両腕を横に広げ、上げ下ろし。 ・両腕を上げ、ひらひらする。 ・しゃがみ、頭を床につけて水を飲む動き。
三 回 目	がおーっとおたけび ライオン	・立った状態で両手を上に広げ、口を大きく開ける。 ・座った状態で友達の両手を掴み、一緒にじゃれ合う。 ・四つ這いで進む。 ・両手を顔の横に上げ、爪を立てる。
	のっそりのっそり かめ	・四つ這いやはふく前進で進む。 ・四つ這いになっている教師の上に乗る。 ・仰向けになり、両手両足を上げ、じたばたする。
	よちよちあるき ペンギン	・両手首を90度曲げた状態で腰の横につけ、かかと歩き。 ・重心を左右に揺らしながら歩く。 ・うつ伏せになり、氷の上をすべる動き
	ちいさくすばやく ねずみ	・四つ這いで進む。 ・チーズを食べる動き。
おおきな カバ	・立った状態で腕を縦に激しく開閉。 ・友達4人で口を開き、顔を見合わせる。 ・両手を横に広げたまま走る。 ・教師を腕ではさむ。	

(写真6) をすると、周囲にいた他の児童も同じようにエサを食べる表現をする姿があった。このことは表現を通して、他者へ意識を向ける、良いところを認めるといったコミュニケーションの基礎を育むことにもつながった。また、2回目の授業からキーワー

ドを追加したスライドを提示することで、同じ象を表現するにも、大きな足音をたてて大股で歩いたり、背伸びをしながら大きな象を表現したりなど、表現に変化が見られるようになった。児童がより工夫した表現を行うことができたようになったことから、この「キーワードの追加」という方法は有効であった。



写真6

エサのバナナを食べる様子

- 3) 第3次 (1)「空の旅へレッツゴー」
 (2)「海の中へレッツゴー」
 (3)「レッツ・せんたく～みんなでせんたくものになってみよう～」

第3次で、授業中に見られた児童の表現や様子をそれぞれまとめると表5のとおりである。「空の旅へレッツゴー」及び「海の中にレッツゴー」では、授業の展開にストーリーをもたせたために、児童が「次は何が起こるのだろう」とスライドの切り替え時にスクリーンにより注目する姿が見られた。

また、第3次では、風や雨、雷、嵐の海といった自然現象を題材に取り扱った。表現する内容が風や嵐の海の際、風または海そのものになりきる児童もいれば、風に飛ばされる様子・波に流される様子を表現する児童もいる等、表現する対象に違いがあった。「雨」の時には、「傘」や「水溜まり」等、雨そのもの以外に雨から連想される言葉を表現する児童もいた(写真7)。さらに、「雷」を表現する際には、腕を雷に見立て友達に触れたり、雷の音を足音で表現したり(写真8)等、視覚や聴覚といった、雷を捉える感覚にも違いがあった。



写真7

雨を傘で表現する児童



写真8

雷の音を足音で表現する児童

一方で、「スカイダイビング」「パラシュート」といった普段の生活の中であまり聞いたのこのことのない言葉に関しては表現する児童が少なかった。このことは題材と身近な物事との関連を図らなかったことが原因として挙げられる。

「レッツ・せんたく～みんなでせんたくものになっ

表5 第3次での児童の表現

第3次		
授業名	題材	児童の表現・様子
(一)「空の旅へレッツゴー」	飛行機	・両手をまっすぐ広げ、走る。 ・曲がるときには、曲がる方向の腕を下げる。
	スカイダイビング	・ジャンプして飛び降りる動き。 ・両腕を横に伸ばし、その場でぐるぐる回る。
	鷹	・両腕を横に大きく広げ、羽ばたく。
	ヘリコプター	・片腕を大きく回し、走る。 ・頭の上で、両手を重ねて振ったり、ひらひらしたりする。 ・腕を曲げ、その場でぐるぐる回る。 ・体をまっすぐした状態で教師が横向きに抱え、回る。
	UFO	・両腕を横に伸ばし、両手をひらひらさせる。 ・両腕を横に伸ばし、上下に動かしながら歩く。 ・教師と両手をつなぎ、一緒に回る。 ・腕を不規則に素早く振る。 ・四つ這いのまま、素早く回る。
	風	・両腕を横に伸ばし、その場でぐるぐる回る。 ・両手を上にあげ、後ろ向きに歩く。 ・走る。
	雨	・傘を差し、高く掲げる動き。 ・教師の頭を両手の指先で触る。 ・スキップして、水溜まりを踏む動き。
	雷	・うつ伏せで寝る。 ・寝ている友達に、両手をひらひらする。 ・その場でジャンプする。 ・片足で床を強く踏み、音を鳴らす。 ・へそを取ろうとする。
	パラシュート	・「ピッ」と言ってパラシュートを広げる動き。 ・歩いたり、走ったりする。
	(二)「海の中へレッツゴー」	海の中でおよぐ
熱帯魚		・うつ伏せになり、両手を合わせて頭の上にあげ、体をくねらせる。 ・両手を合わせて体の前に出し、走る。 ・片腕は体の前、もう片腕は体の後ろに伸ばし、ひらひらさせて進む。
エイ		・両腕を横に広げ、羽ばたきながら歩く。 ・体をくねらせて、床に倒れる。
くらげ		・両腕を横に広げて揺れながら歩く。 ・頭の上で、両腕で輪を作る。 ・指先から電気を出す動き。 ・友達や教師の体を指で差す。
サメ		・腕を縦に大きく開閉し、走る。 ・教師を追いかけ、腕ではさむ。 ・両手を合わせて、頭の上に置く。
嵐の海		・走りながら、両腕を横に伸ばし素早く回る。 ・ジャンプしながら走る。 ・友達と両手をつなぎ、回る。
わかめ		・立ったり膝立ちの状態、両手を合わせて上にあげ、体を左右に揺らす。 ・腕をくねらせながら歩く。 ・腕を曲げてあげ、腰を振る。
(三)「レッツ・せんたく」	洗濯機に水が入る	・仰向き、うつ伏せ、横向きで寝る。 ・しゃがむ
	洗い・すすぎ	・床に寝て、横転。 ・四つ這いの状態で回る。 ・教師と手をつなぎ、ジャンプしながら回る。 ・仰向きの状態で、背中を床につけたまま回る。 ・両腕を横に伸ばし、その場でぐるぐる回る。 ・友達や教師と一緒に手をつないで回る。
	脱水	・寝た状態で体をねじる。 ・友達や教師を抱きしめる。 ・立って、両手を合わせて上に伸ばし、足を交差させる。 ・教師の腕を持ったまま周囲を回る。 ・片腕を大きく回す。
	しわ伸ばし	・しゃがんだ状態から、体を広げてジャンプする。 ・床に寝る。
	干す	・両腕を横に広げ、体を揺らす。 ・みんなで手をつなぎ、揺れる。 ・友達や教師と手をつないだ状態で、一緒に走る
	たたむ	・しゃがむ、正座する。 ・仰向けの状態で両足を腕で抱える。

てみよう～」では、授業の最初に洗濯の様子を興味深く見る様子（写真9）が見られ、授業の導入で洗濯に関する児童の関心を高めることができた。「脱水」や「たたむ」といった表現を行うことで、日常ではめったにすることのない動きや姿勢をとることができた（写真10, 11）。

またこの学習では、「友達と手をつなぎ一緒に回る」、「みんなで手をつなぎ体を揺らす」等、児童同士で工夫しながら、表現する様子が多く見られた。このことは、授業を行っていくことで友達と一緒に表現することに楽しさを感じ、今まで個人の中で完結していた表現の楽しさや技術が発展したからである。



写真9

洗濯の様子を見る児童



写真10

脱水を表現する児童



写真11

衣服をたたむことを表現する児童

5. まとめと今後の課題

本実践において、児童が体を使って様々な表現を行うことができた。授業後に教師間で、その日の表現の授業の様子や今後の展開について話し合ったが、

その際にも「こういう姿が見られた」「〇〇が面白かった」「〇〇をしてみたら△△の動きが見られるかもしれない」といった意見が多く提案され、授業を考える側としても、楽しく授業を作ることができた。また、ある程度児童の表現や体の動きを想定したものの、それ以上に教師が思いもつかなかった表現や思わず感心するような表現もあった。その際に、ゴルフフリーという視点を持つことで、児童一人一人の表現の面白さに教師が気づき、捉えることができた。それが授業内で設定した表現の紹介等、児童の表現の共有を図ることができたことに繋がったと実感した。

今後の課題として、第1次「音楽を聴いて、体を自由に動かそう」での「3. 音楽のみを聴いて体を自由に動かす」の反省から、曲調の異なる複数の曲を用意し、児童が音楽の違いを捉え、表現するという活動を行いたい。その際には、音楽の専門的な知識を持っている教員とも連携しながら、音楽的な視点を入れつつ、曲の精選等を行っていきたい。

引用・参考文献

- 文部科学省（2017）特別支援学校学習幼稚部教育要領 小学部・中学部指導要領：121-127.
 村田芳子（2011）小学校の表現運動における単元計画立案の考え方. 女子体育 Vol53, 8-11